中野区
議会議員

中村延子
区議会レポート

発行／中野区議会民進党議員団
中野区中野 4-8-1　Phone: 03-3228-8876　Fax: 03-3389-8718
編集／中村延子事務所
中野区弥生町 4-36-6-402　Phone:080-6533-9450　Fax: 03-3380-3150
email: n@nakamuranobuko.jp

Vol.16
平成29年2月号

平成28年第4回定例会
本会議で一般質問を行いました

1．組織のあり方について

中村●現在の区の組織は、繰り返される組織改正により、区民にとって非常にわかりにくくなっているところが散見される。また、部をまたがる事業も見受けられるなど必要な連携が取りづらい状況に見える。組織のあり方は、区民サービスが滞ることなく、区民にとってわかりやすいものであるべきと考えるが、区の見解は。

区長●区政課題を効率的効果的に解決するため目標を明確にし、目標体系に沿って常に見直しを図りながら体制整備をしてきた。今後も区政課題、目標を見据え最善の体制を整えていきたい。

2．女性の健康施策について

中村●社会全体で働く女性の活躍を推進する機運が高まっている一方で、女性が働き続けるための健康面への配慮は十分ではない。日本の将来を考える上では、女性の健康への配慮が不可欠であり、女性の活躍推進の取り組みには、健康増進に関連した施策も含めることが必要。

（1）女性特有のがん検診について

中村●今年は、小林麻央さんが乳がんに罹患された事が大きく報道をされた。乳がんの罹患が一番多いとされる40代よりも随分若い34歳での罹患報道を受け、若年層も心配になった方が多くいる。一方で、乳腺が発達している30代では、マンモグラフィーを用いた検診では、レントゲンにしこりが写らないこともある。放射線を無駄に浴びるというリスクもあることも理解する必要がある。早期発見には、自己触診の習慣化が有効だが、区の見解は。

区長●自己触診の習慣化は重要だと考えており、様々な機会を捉えて、若い年齢層も含め、啓発に努めていく。

中村●子宮頸がんは、これから結婚や出産を迎える世代において近年急増しており、検診を一度も受けたことがない層へのアプローチは非常に重要である。一方、他のがん検診と違い、自分の身体のプライベートな部分を診てもらうこともあり、受診のハードルが高いことも事実である。手続きが煩雑だと、意思はあるのに受診するまでに至らないケースも多くある。検診受診率を向上させるためには、未受診者に対する受診券の直接送付が受診券の直接送付が受診への一つのハードルを下げることになる。ぜひ実施すべきと考えるがどうか。

区長●今後、受診勧奨の対象を絞り込んで受診券を直接送付するなどの方法を検討していく。

（2）教育および啓発について

中村●文京区では、正確な健康に関する情報、妊娠・出産に関する情報を知ってもらうことを目的として、学習教材を作成し、区内の中学に通う3年生全員に配布。約7割の学校で補助教材として使用。卵子の老化について、性感染症や中絶のリスクのみならず、飲酒・喫煙、ドラッグの危険性や子宮頸がんについてなど、健康にまつわる情報が多岐にわたり、また将来的な視点を持った教材になっている。いつ結婚をし、子どもを産むのか否かの選択は個々人の権利だが、必要な教育や情報が行き届いていなければ、いざ妊娠を希望するときには時間が足りないという可能性がある。若年層からの教育や啓発が必要だと考えるが、区の見解は。

区長●今年度開始した妊娠・出産支援事業等についても、若年層を対象としたもので、妊娠・出産などについて正しい理解を深め、ライフプランづくりに役立ててもらうことを目的としている。今後もこういった取り組みを進めていきたい。

3．骨髄ドナー登録推進について

中村●東京都は、平成27年度から骨髄移植ドナー支援として、区市町村が行う骨髄・末梢血幹細胞の提供者や提供者の勤めている事業者に対する補助事業を開始したが、中野区としても骨髄ドナーへの支援を行うべきと考えるがどうか。

区長●骨髄ドナー支援については、都の補助事業活用も含め、検討していきたい。

区長に平成 29 年度予算要望をしました

11月17日に田中大輔中野区長に予算要望を実施しました。内容は以下になります。

「平成27年度決算は多くの財政指標に改善が見られました。この数年間の大規模金融緩和と公共投資拡大の結果が区の歳入増加につながっています。しかし、こうした官主導で株価を支える手法の実体経済への影響は限定的で、2%の物価上昇という当初の目標は達成できず、手詰まりの様相を見せています。また、ふるさと納税や法人住民税の一部国税化など区の基幹収入の減少に繋がる制度改正の動きや、高齢化の進展による社会保障費の増加などもあり、区財政の行先は楽観視できません。

世界に目を転じても、政治経験がなく孤立主義的な主張を繰り返す候補者のアメリカ大統領選挙当選、イギリスの欧州連合離脱、中国経済の減速、IS関連とみられるテロの頻発など、不透明感は増すばかりです。

こうした先の見通しを持ちづらい状況にあっては、区政には一定の財務規律を保ちつつ、区民の生活実態を把握し、それを支える施策を進めることが求められます。特に、未来への投資としての子育て支援・教育施策については、しっかりと予算をかけて取り組むべきです。」

こうした観点から民進党議員団として、80項目について平成29年度予算に反映されるよう要望いたしました。

議会の外でも様々な活動をしています！

長妻昭衆議院議員と朝の街頭演説（12月20日）

WOMAN SHIFTがマニフェスト大賞特別賞を受賞！（11月11日）

Voter's Bar in Nakanoに参加（11月14日）

WOMAN SHIFTメンバーで千葉市長と懇談（11月15日）

日米青年政治指導者プログラム訪日団と懇談（12月6日）

インターン生とポスティング大会（12月10日）

会派で静岡市の人材養成塾について視察（12月15日）

武蔵野プレイスを若手議員で視察（12月16日）

インターン生との交流会に参加（12月18日）

静岡市の子ども施設「ま・あ・る」を視察（12月22日）

中村延子
なかむら のぶ こ

略歴　1981年 9月2日生まれ　東京都中野区出身／東京文化小学校、東京文化中学校卒業／米国アニーライトスクール高等部卒業／米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業／在学中、北京大学医学部へ短期留学／約4年間、民間企業に勤務／民主党衆議院議員手塚よしお秘書、参議院議員蓮舫秘書として経験を積み、2011年中野区議会議員選挙にて初当選。2015年4月2513票いただき、2期目の当選／**役職**：区民委員会委員長、少子高齢化対策調査特別委員会委員

www.nakamuranobuko.jp

趣味　●音楽、料理、旅行、フラワーアレンジメント●おとめ座／B型／酉年